

蝶の楽園（蝶と私の物語）

第一話 蝶との出会い

大塚博太



〈写真1〉 丸々と肥った幼虫



〈写真2〉 羽化してはばたきする蝶

それは何時頃のことだったのだろうか。果物の好きな私は連日オレンジ、グレープフルーツなどの柑橘類の果物を口にしていたが、食べ残した種を捨てるのはもったいないと、空いている鉢にまいてみたのが始まりなのでした。その甘い匂いに誘われて、蝶が卵を産みにきたのであるが、或る日、レモンの木の葉が次々に食いちぎられているのに気づき、よく見ると丸々とよく太った蝶の幼虫を見つけたのです（写真1）。

「つとほなしに姿を消し、蛹にでもなつたのかと思つていた在る日、羽化して羽ばたきをしている蝶を見つけたのです。始めのうちは、まだ羽根はしつとつとぬれていましたが、太陽の陽に当たりて三時間もすると、美

しい模様が浮かび上がり写真2)、その輝くような美しい羽根を一杯にひるば、私に挨拶する

かのように、何度も羽ばたきを繰り返して、やがて大空に飛び立つ

ていったので

私は思うのです。犬や猫の哺乳類の世界と同じように、愛情をもって接していれば、たとえ言葉は通じなくとも、昆虫達にも人の気持ちが分かり、またそれに報じよつとするじぐさが私には強く感じられたのでした。



した。

蝶さん達よ

また来年も飛んできでおくれ

沢山の友達も一緒につれてね
ミカンの種を沢山までおくからね

そしてこのベランダを

あなた達のすばらしい乐园に
作り変えてゆくつむね

その後、何

羽かの蝶が羽化して飛び立

つていったのですが……(写真3)、私は面白こと気につけたのです。それは、どの蝶も私を呼び出すかのようだ、体を窓ガラスや水槽の金網等に繰り返しふつけるようにして音を立て、私がベランダに出来ると、あたかも別れの挨拶を終え

〈写真3〉 飛ひ立つてゆく蝶

て安心したかのようだ、大空に向かって飛び去つていったのです。